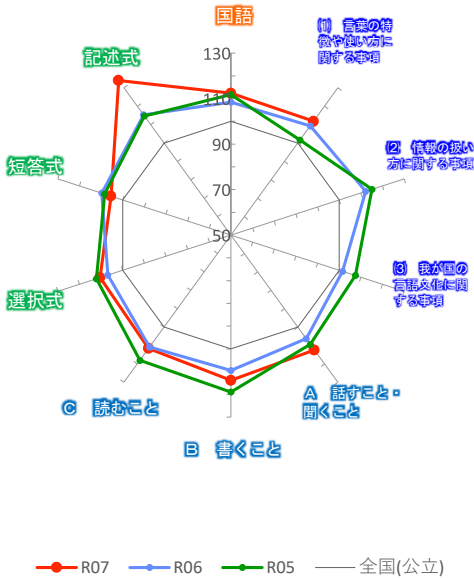


＜教科に関する調査＞

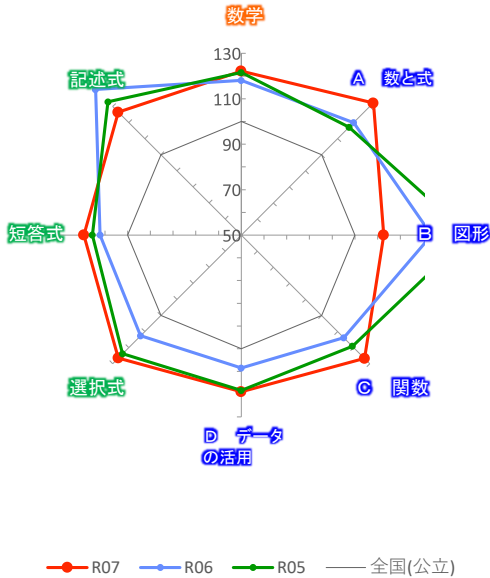
【国語】

		R07	R06	R05
全体	国語	112.3	108.4	111.7
内容	知識及び技能	111.9	109.3	101.6
	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項			
	(2) 情報の扱い方にに関する事項		112.2	115.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項		101.6	107.5
	A 話すこと・聞くこと	112.4	106.3	109.4
	B 書くこと	113.8	109.5	119.0
	C 読むこと	111.6	110.9	118.1
	選択式	110.5	106.9	112.2
	短答式	105.4	109.7	108.4
形式	記述式	134.0	115.4	114.7



【数学】

		R07	R06	R05
全体	数学	122.2	118.1	121.6
領域	A 数と式	132.2	120.0	117.1
	B 図形	112.7	133.7	150.3
	C 関数	126.8	113.8	119.1
	D データの活用	118.9	108.5	118.4
形式	選択式	126.5	112.6	123.8
	短答式	119.2	112.1	115.5
	記述式	126.5	140.6	132.9

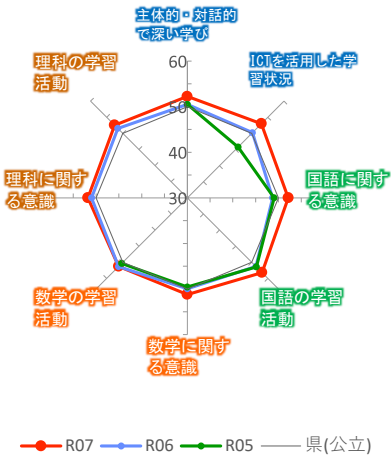


※表内の数値及び教科レーダーチャートは、各年度の調査結果について、それぞれの区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。

＜生徒質問調査＞

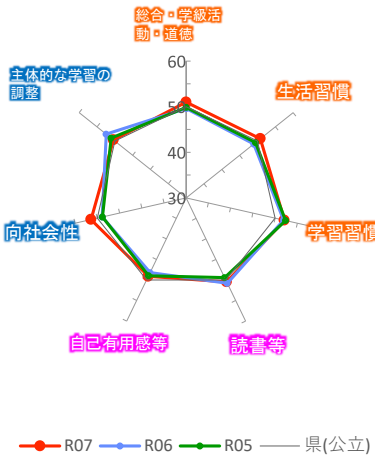
教科を中心とした学力・学習状況

	R07	R06	R05
主体的・対話的で深い学び	52.3	50.5	50.5
ICTを活用した学習状況	53.0	50.2	45.8
国語に関する意識	52.1	48.7	49.1
国語の学習活動	53.2	51.3	51.4
数学に関する意識	51.2	49.9	49.6
数学の学習活動	51.3	51.3	50.3
理科に関する意識	51.8	51.0	
理科の学習活動	52.6	51.5	



その他の学力・学習状況

	R07	R06	R05
総合・学級活動・道徳	51.0	49.6	49.9
生活習慣	50.8	49.0	49.5
学習習慣	52.1	51.9	52.4
読書等	50.5	50.8	49.4
自己有用感等	49.1	48.2	49.0
同社会性	51.4	48.9	48.8
主体的な学習の調整	50.4	52.4	51.0



※表内の数値及び質問レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」を参考に、千葉県独自に設定した、各設問に対する選択肢ごとの得点(重み)から県平均値及び標準偏差を計算し、それらを基に算出した偏差値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記＜教科に関する調査＞と重複するため省略してある。また、過去3年間調査のあった項目のみ表示したものである。

＜教科に関する調査の結果にみられる成果と課題＞

国語の調査結果にみられる特徴と現状 ここ3年間においては、すべての項目において全国平均よりも高い結果となっている。前年度と比べると内容項目に関してすべてにおいて微増の結果となっている。思考力、判断力、表現力「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」は前年よりも高い水準であるが、「C 読むこと」は前年とほぼ変わらない結果だったといえる。 出題形式においては記述式の問題の数値が著しく伸びた一方で、短答式の形式ではここ3年間で最も低い水準となっているため、課題がみられる。	数学の調査結果にみられる成果と課題 毎年、全ての項目において、全国平均を毎年大きく上回っている。全体、「C関数」、「Dデータの活用」、「選択式」、「短答式」、「記述式」においては数値が隔年で上下している。「A数と式」においては年々数値が上がっているが、「B図形」においては年々数値が下がっている。
---	---

＜質問調査の結果にみられる成果と課題＞

生徒質問調査の結果にみられる成果と課題 生徒質問調査における教科を中心とした学力・学習状況の経年分析の結果の推移を見ると、ICTを活用した学習状況の項目の値が大幅に向上している。コロナ禍が明け、GIGAスクール構想が始動して着実に成果が出ているといえる。各教科で一人一台端末を利用した授業が展開されており、職員のICTのスキルも向上が見られる。一人一台端末の利用が定着した結果、主体的・対話的で深い学びの項目の値も向上している。教科を中心とした学力・学習状況の値は、すべての項目で値の向上が見られ、日頃の学習活動の成果があらわれている。教科ごとでは、国語に関する意識の項目の値の向上が大きくなっている。 生徒質問調査におけるその他の学力・学習状況の経年分析の結果の推移を見ると、主体的な学習の調整・自己有用感等の項目で値が低い。この2つの項目は昨年度の結果より値の減少が見られる。また、自己有用感等の項目は3年間県平均を下回っており、本校の重要課題といえる。向社会性・生活習慣の項目は、昨年度までの県平均を下回る結果であったが、今年度は改善の兆しが見られた。来年度も継続して取り組む必要がある。

＜改善策・検証方法＞

改善目標 【国語】 協働的な学習を取り入れ、自分の考えを発信する学習活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の素地を養う。 短答型の発問を起点として内容を深めるように課題設定を行う。 【数学】 図形とデータの活用の領域の力を伸ばす。 【質問調査】 地域や保護者とのこまめな連携を図り、地域全体で生徒の学びや成長を支援する環境づくりに励む。 継続した取り組みを実施し、学校としての信頼をより高めていく。	改善方策（どのような取組をいつ・どの程度行うか） 【国語】 ICTの活用や班別活動、ジグソー活動などを行い、意見の交流や考えを発信する場面を授業内で設定する。 【数学】 既習事項の確認をより密に行い知識の積み重ねを丁寧に進め、応用問題にも生かせるようにしていく。 【質問調査】 ホームページや学校便りの工夫等、情報発信の手段や内容を改善していく。	検証方法（いつ・どのように検証・評価するか） 【国語】 小テストや到達度テストを通じた学習の定着度の確認。及び授業プリントや振り返り、ミライシードなどを用いて思考の可視化を行う。 【数学】 小单元ごとに確認テストを行い、知識の定着度を測る。 【質問調査】 日々の生徒の表情や会話、生活記録帳、心のノートなど様々な観点から生徒の変化を見取る。 年に2回実施しているQU調査や6月の教育相談、10月の二者・三者面談などで生徒の様子を把握し、全職員で情報共有を行う。学年・学校全体で生徒をサポートする体制を構築する。
---	---	--

改善方策の実施結果・評価（改善方策を実施後、検証してどうだったか）

【国語】 ICT端末を用いることで考えの共有が一斉にできるようになったため、苦手な子も書けた生徒の文章を手立てとして表現できるようになっていた。ジグソー活動では、エキスパート活動を取り入れることで国語が苦手な生徒も自信をもって班員に説明することができていたため一定の効果があったように思われる。 【数学】 ICT端末を用いることや単元テストや確認テストを実施して定着度を把握し、その結果をもとに授業を行ったため、定着度が上がったのではないかとと思われる。また、個人で問題に取り組む時間やグループにして友達同士で教えあう時間を意図的に取り入れたことも定着度の定着に繋がっているのではと思われる。
